

歴史人物誌

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介していきます。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・七〇）です。

長俊は、天保八（一八三七）年、漢方医の父鑑貞の子として江戸で生まれた。七歳の時、父と共に郷里山田に帰った。向

学心が強く、山田の和井内貞光について漢学を学び、十五歳の頃に盛岡に出、南部藩校作人館教授青木逸民について医師を修め、武蔵の人貫洞益斎、八戸の人高保



龍昌寺境内に建てられた安倍長俊の頌徳碑

山田の教育先駆者

安倍長俊

を開設、この時三十六歳であった長俊は請われて飯岡小学校の

教師となった。

明治十六年、長俊は「開校以来教授親切にして逐年隆盛ならしむ九年余」と讃えられ文部省から表彰された。明治二十二年、飯岡村と山田村が合併し山田町となり、校名も山田尋常小学校となった。翌二十三年、飯岡一三―三六（現在の役場庁舎の位置）に新校舎が落成した。翌二十四年、長俊は第三代校長となり、高

吟教に数学、福島の人染田泰忍について国学を修めた。その後、江戸に出、さらに勉学を重ねた。山田に帰った長俊は父の跡を継ぐべく、医学に励むとともに、私塾を開き山田の子弟教育に尽力された。明治五年、学制が頒布され、翌六年九月、飯岡では龍昌寺庫裡に飯岡（小）学校を開校、この時三十六歳であった長俊は請われて飯岡小学校の

等科設置の運動に奔走。明治二十五年、これを実現させ山田尋常高等小学校となった。明治三十一年、医師をしていた父鑑貞が七十四歳で亡くなり、長俊は医院を継いだ。真夜中でも連絡があると病人の家に診察に上がり、困っている家庭からは薬代をとらず、年の暮れには貧しい家庭に餅を配って歩いたといわれる。「医は仁術」を身をもって実践され、百姓や漁民から信頼され慕われた。

歌は桂園派の流れをくみ、伝統的、温雅なものであるといわれ、六百七十首を超える歌を作った。漢詩は「野橋夕景」など十一首あり、六曲屏風に書かれている。長俊は大正元年十月、七十六歳で亡くなられた。医師、歌人であるとともに教育者として三十有余年、教育に尽力。山田の教育史に大きな足跡を残した先駆者である。没後大正四年十月、有志によって長俊の頌徳碑が龍昌寺境内に建てられた。

町長室から

県立宮古病院の産婦人科の医師二人が出身の大学病院に引き上げられるとの報道がありました。このことは宮古市だけにとどまらず宮古・下閉伊管内の住民にとって深刻な問題であり、医師確保の署名運動を行なうこととして本町でも保健委員の皆さんに具体的な取り組みをお願いしたところ。幸い、この対策として岩手医科大学から二人の常勤医師派遣の意向が伝えられ、二月十四日に開催された宮古地域県立病院運営協議会の席上、宮古病院長から報告されました。

今回の問題は一応解決されたわけですが、医師不足は県立山田病院でも深刻です。新年度に新築移転のための工事が始まり、来年四、五月頃にも完成が予定されており。開院のために一定の医師数が確保されなければなりません。長い間の住民の願いが確実に実現できるよう今後も努力してまいります。

山田町長 沼崎喜一